毎年11月20日は伊勢志摩国立公園の日

世界水準のナショナルパークを目指す
伊勢志摩国立公園

早春の便り

Semi-Annual
vol.8

発行／(一財)伊勢志摩国立公園協会、三重県　編集協力／(有)伊勢文化舎　発行日／令和4年2月1日

第4回 石原円吉賞に2団体1名
鳥羽マリンターミナルで晴れの舞台

横輪町活性化委員会
鳥羽恐竜研究振興会
山川芳洋氏

伊勢志摩の国立公園指定から75周年を迎え、恒例のイベント"Happy Birthday!伊勢志摩国立公園"が、令和3年11月19日(金)～21日(日)、鳥羽市の鳥羽マリンターミナルにおいて開催されました。このイベントで行われた第4回石原円吉賞表彰式と記念講演、および記念イベントの模様を紹介します。

賞状を手に記念撮影する受賞者と関係者、来賓者、山本会長（後列左から2番目）

山川芳洋氏

鳥羽恐竜研究振興会

横輪町活性化委員会

今年度で4回目となった石原円吉賞（伊勢志摩国立公園協会の主催）。今回は、伊勢市の横輪町で「横輪桜」などの町の魅力の発信や直売所の運営に務めている横輪町活性化委員会、鳥羽市の「トバリュウ」化石発見地の保護や調査、広報活動をしている鳥羽恐竜研究振興会、志摩市で海女の木彫り彫刻を作り続け、志摩地方の歴史民俗文化の研究にも取り組んでいる山川芳洋氏の、2団体1個人が栄えある円吉賞に輝きました。

表彰式には関係者や来賓約30人が出席し、山本教和伊勢志摩国立公園協会会長から、各受賞者に表彰状並びに記念品が贈呈されました。

この賞は、戦後初の国立公園指定の実現に力を尽くした志摩市出身の政治家石原円吉（1877～1973）の志を継承し、同国立公園の地域文化の継承、適正な活用、動植物の保護、美化などに貢献した個人や団体を表彰するものです。

今回は表彰式と記念講演が初日に行なわれ、2日目と3日目には一般参加者が楽しめるイベントが開催されました。

※受賞者の活動と喜びの声と記念講演は2～3ページ、記念イベントは4ページに掲載。

記念イベントも盛況！

記念イベントの「石のお絵描き」

記念イベント
どんぐりを使ったクラフト体験&石のお絵描き

"Happy Birthday!伊勢志摩国立公園"2日目からは、一般参加を募って国立公園の木や石を使った工作やアートの体験イベントを行いました。

石のお絵描きでは7つの採集地で拾った石が並んだ

クラフト体験で写真立てを作る子どもたち

2日目は、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会による、志摩市の横山ビジターセンターで行っているクラフト体験の出張版。参加者らは、国立公園の森で集めたどんぐりや木の枝などを材料に、オリジナルの写真立てやストラップ作りを体験。

3日目は、国立公園各地の浜や河原から集めた石に絵を描く「石のお絵描き」の体験で、鳥羽市の中学校で美術講師をする上村ひかるさんが指導をしました。

クラフト体験に参加した女性は「こんなに格好良くできるとは」と作品を気に入り持ち帰っていました。

石のお絵描きの参加者たちと講師の上村さん（左端）

伊勢志摩国立公園ニュース

News 鳥羽ビジターセンターが海の玄関口に移転

国立公園利用者の案内所となる鳥羽ビジターセンターが令和3年9月12日に鳥羽マリンターミナルに移転しました。

移転した鳥羽ビジターセンター

市営定期船や遊覧船の乗客が集まる1階の一角に事務所と窓口を構え、パンフレット棚を設置。鳥羽湾に生息するスナメリの実寸大模型と鳥羽海上保安部の巡視艇「いせゆき」の10分1模型を展示しています。

運営する伊勢志摩国立公園協会の滋野峻事務局長は、「離島観光の案内もしやすくなりました。定期船を待つ時間に気軽にご利用下さい」と呼び掛けています。

年中無休（年末年始を除く）で営業時間は午前9時～午後4時。

News 26コースを手軽な一冊に『歩いて伊勢志摩』発行

伊勢志摩国立公園協会は、令和3年11月、国立公園のウォーキングガイドブック『歩いて伊勢志摩』を発行しました。国立公園指定75周年事業の一つ。

文化と景勝に恵まれた神宮御園～名勝二見浦や、太平洋の絶景を拝める船越～麦埼灯台など26コースを収録し、所要時間も記載。地図と歩く流れに沿った文章で構成しています。

『歩いて伊勢志摩』の表紙

A5版72ページ、千円（税込み）。鳥羽ビジターセンターにて販売中。

問い合わせ先
鳥羽ビジターセンター
☎0599-25-2358

第5回石原円吉賞推薦 今年7月募集開始！

石原円吉賞は例年7月頃募集を開始し、伊勢志摩国立公園の指定日（11月20日）に合わせて表彰式を行います。伊勢志摩国立公園の最大の魅力は、人と自然の関わりを感じられるところであり、今後も同国立公園の保全や活用に取り組み、魅力ある地域づくりを行っている方々の活動にスポットを当てていきます。推薦の受付・表彰式については、詳細が決まり次第案内させていただきます。皆さまの推薦をお待ちしています。

〈候補者の推薦〉

公募により行います。表彰の対象者は、長年、伊勢志摩国立公園の地域文化の継承や適正な活用の推進、動植物の保護などを 行っている方やグループ・団体です。（若干名）推薦書は、伊勢志摩国立公園協会のホームページ（アドレスは左下）で入手できます。

石原円吉 いしはら・えんきち
〈1877～1973〉
英虞郡和具村（現在の志摩市志摩町和具）生まれ。家業のかたわら政界に進出し、日本の水産業発展を牽引。伊勢志摩の国立公園指定にも奔走した。伊勢志摩国立公園協会初代会長。海の博物館創設者、同初代館長。

お問い合わせ先 >>>
(一財) 伊勢志摩国立公園協会
〒517-0011　三重県鳥羽市鳥羽1丁目2383-51　鳥羽マリンターミナル1階
TEL&FAX.0599-25-2358
MAIL　ise-shima@ise-shima.or.jp
HP　https://www.ise-shima.or.jp/

三重県農林水産部みどり共生推進課
〒514-8570 三重県津市広明町13番地
TEL.059-224-2627　FAX.059-224-2070
MAIL　midori@pref.mie.lg.jp

受賞者の活動と喜びの声

Ishihara Enkichi Award

第4回 石原円吉賞

横輪町活性化委員会
鳥羽恐竜研究振興会
山川 芳洋氏

石原円吉賞 2021

地域住民による自然や文化の発掘・活用

横輪町活性化委員会（伊勢市）

横輪桜、川遊び、横輪芋——地域の宝物を探して後世に残す

横輪川が流れる伊勢市横輪町で、過疎化が進む地域を盛り上げるために活動していた住民有志たちが、平成18年に同会を設立。本年度の委員は、住民全員の65人です。これまで、会が申請して新品種に認定された横輪桜やホタルといった地域資源を活用したイベントを催し、観光客を呼び込んできました。

コロナ禍前で賑わった平成30年の横輪桜まつり（横輪町活性化委員会提供）

また、町内の交流施設"郷の恵「風輪」"を運営し地場産品の販売もしています。特産の山芋「横輪芋」は官民で協力して、生産、商品化、販売を手がける六次産業化を実現しました。

そのほか防風用石垣の景観保全や川遊びを通じた環境教育など、官民で連携した持続可能な地域づくりが高く評価されています。

上田会長（左）と理事の岡康弘さん

委員会発足時から関わってきた上田和夫会長と岡康弘理事が出席。上田会長が「地域の宝物を探してきました。春は横輪桜、夏は川遊び、秋は横輪芋が中心。後世に残り継続できる形で活動していきたいです」と述べました。

審査委員を代表して、櫻井治男皇學館大学名誉教授が講評を発表。「『地域に光を当てる』ではなく『地域の光を外に出す』という活動であるのが印象深い」と語り、見習うべき地域起こしとして讃えました。

石原円吉賞 2021

恐竜化石発掘現場の保護と活用

鳥羽恐竜研究振興会（鳥羽市）

化石採集で子どもたちの目が輝く大きな夢を与える場所

寺田会長（左）と山下事務局長

平成8年夏に鳥羽市安楽島町の砥浜海岸で国内最大級の草食恐竜「トバリュウ」の化石が発見されたのを機に、同年12月に発足。現在は役員と現場スタッフ5人を合わせた約50人で活動中。

化石発見現場での専門家による学術調査の支援をはじめ、修学旅行や地元児童らの体験学習（化石採集会）の案内、看板整備や草刈り、など、幅広く活動をしてきました。現在は、同10年に同所で発見されたイグアノドン類の恐竜足跡化石の発掘場の保護が大きな課題で、メンバーが手作業で蛇篭を積むなどしています。

近年は団体での利用が増え、観光誘致の面でも評価されています。昨年10月からは、鳥羽1丁目の門野幾之進記念館に発掘した化石や資料を集めて「鳥羽恐竜展」として公開しています。

表彰式には、寺田直喜会長と山下直樹事務局長が出席。寺田会長が、「海岸近くで化石採取ができるのは全国でも少なく、小さな二枚貝の化石一つを見つけても子どもたちの目は輝きます。大きな夢を与える場所です」とスピーチしました。

櫻井氏は、「研究振興会と銘を打ち、その点をしっかり押さえていてありがたい」と述べ、学術面での貢献を強調しました。

化石発掘現場でのガイド（鳥羽恐竜研究振興会提供）

石原円吉賞 2021

海女の彫刻制作と鳥羽・志摩の民俗文化研究

山川 芳洋 氏（志摩市）

クスノキから彫る等身大の彫刻 海女はこの地域の代表選手

志摩市出身で三重県職員時代から独学で彫刻を始め、主に等身大の海女の木彫を160体以上、制作してきました。日展入選は8回を数えます。作品は鳥羽・志摩両市の観光施設などに提供し、展示されています。

また、志摩半島の祭りや歴史の研究にも努め、平成28年に書籍『鳥羽志摩の國民俗歳時記』を出版。国立公園内で伝統行事の休止が相次ぐ中、貴重な記録となっています。

70歳を迎えた現在も精力的にノミを振るい、郷土研究にも勤しんでいます。

受賞者スピーチで山川氏は、自身の彫刻作品について「60、70歳の実際に多い海女さんがモデル。年配の方のほうが経験や喜怒哀楽の幅が広がる」と説明。さらに、「海藻、アワビ、祭り、いろんなことが海女を切り口にして話せます。海女はこの地域の代表選手と思っています」と語りました。

海女の彫刻作品を制作する山川さん

山川さん（左）と妻の美代さん

櫻井氏は、山川氏の彫刻が地元のクスノキを材料にしていることから、「浜島地区の楠御前八柱神社がある地域では、楠という字を付けると長生きする伝承がある」ことに関連付け、「ますます元気にがんばっていただきたい」と激励しました。

記念講演 第3回石原円吉賞

ないものをねだるより、あるものを探す

島の旅社 山本 加奈子 氏

石原円吉賞の表彰式に先立ち、第3回同賞を受賞した「島の旅社推進協議会」の山本加奈子氏を招いて記念講演が行われました。

島の旅社事務局長で、答志島の観光客を案内している山本加奈子氏が登壇。島旅の魅力と、「豊かな自然、島の人たちが長い年月をかけて作ってきたものが博物館」をコンセプトとする活動を発表しました。

山本氏は、大阪出身で結婚を機に答志島に移り約二十年と自己紹介。当初は高齢者が働く姿をあちこちで見て戸惑ったものの、「元気であれば人に求められるのは素敵なこと」と考えを改めたと述べました。

答志島の大間の浜で遊ぶ修学旅行生（島の旅社提供）

続いて、夏期に答志島近くの無人島に送迎して実施している磯観察のツアー「浮島水族館」について語り、船を乗り継ぐ手間があり野外なので天候に左右されるが、「鳥羽の水族館よりも高い料金なのにリピーターとなっていただいている」と好評をアピールしました。

また、修学旅行で訪れた児童らが島の路地を散策したり、海女と交流して潜水用の重りを着用したことなどを語り、「（インターネットで）見たり聞いたりすることが便利になったけど、島でないとできない体験はたくさんある」と述べました。

観光客用トイレの数など設備の不十分は認めつつ、「ないものをねだるより、あるものを探す」のが大切と主張。最後に"じんじろ"車を押しながら笑顔で路地を歩く女性たちの姿をモニターに映し「人、絆、食、風景、それぞれを大切にして活動していきたい」と今後への意欲を示しました。

修学旅行生からの感謝の手紙を手に講演する山本さん